

ロジックモデル(案)

具体的取組(個別施策)		指標(実績)
【入退院支援】		
医療機関の認知症高齢者の受入れ状況の把握		
多職種連携研修の実施	研修会参加回数	
入退院調整マニュアルの運用	事例検討会への参加回数	
医師・薬剤師・看護師・介護従事者向け、認知症対応力向上研修の受講促進	受講者数	
医療機関・介護施設の有資格者やケアマネ・包括職員等に応じた認知症サポーター養成講座の実施	受講者数	
医療従事者による介護施設やグループホームの見学	見学回数	
認知症サポート医、認知症地域支援推進員の周知・連携	周知度	
認知症に関する相談窓口の充実・チームオレンジ(認知症支え隊)活動の周知	周知度	

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
体制整備		
	BPSD等、認知症状が出現している患者の受け入れができる医療機関が増えている。	
	認知症の有症状が強くても、診療科の調整がスムーズに図られ、入院ができている。	
多職種・多機関連携		
	入退院時において、ケアマネ等と病院担当者が、認知症患者の情報(症状や特性)をタイムリーに共有できている。	
人材育成・スキルアップ		
	病院・施設内において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが増えている。	
	認知症状を有する方の退院に向け、医療・介護関係者が当事者の望む暮らしをサポートできる体制が整えられている。	
普及啓発		
	認知症当事者及び家族等介護者への支援が行き届いている。	

番号	令和12年の状態(中間アウトカム)	指標
1	認知症の人が安心して療養することができる環境が整っている。	

番号	最終的に達成したい状況(2040年)(最終アウトカム)	指標
1	本人が望む場所での生活が可能であり、専門職、担い手、サービスの受け手、誰もが暮らしやすくなっている	

資料 3 - 1

【日常の療養支援】

施設の認知症高齢者の受入れ状況の把握		
定期的な当事者・家族のミーティングや対話の実施	居場所の箇所数	
認知症高齢者のニーズを把握		
多職種連携研修の実施	研修会参加回数	
想いを伝える私ノートの活用及びACP(人生会議)の定期的な開催促進	開催回数	
初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発活動	周知度	
かかりつけ医の対応力向上研修の受講促進	受講者数	
歯科医の認知症患者に対する対応状況の把握。		
医療・介護事業者に認知症時期別・症状別対応マニュアルを周知し活用促進	周知度	
医療介護従事者向けに意思決定支援に関する研修会を実施	研修会参加者数	
多職種連携研修の実施	研修会参加回数	
医療・介護従事者向け研修会の実施(BPSD等への対応)	研修会参加者数	
認知症に関する相談機関(認知症地域支援推進員専用ダイヤル・若年性認知症サポートセンター)についての周知徹底	周知度	
認知症に関心を持つ地域住民を増やすため、認知症サポーター養成講座、スキルアップ研修及び認知症支え隊の養成を展開	研修会参加者数	
医療・介護職向けに、希望を叶えるヘルプカードの活用策の周知	使用人数	
認知症に関する相談窓口の充実・チームオレンジ(認知症支え隊)活動の周知	周知度	

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
体制整備		
	医療ニーズの高い認知症の人を受け入れる介護事業所が増えている。	
	認知症の人や家族が参加できる通いの場や居場所が増えている。	
	認知症の状態像や医療ニーズに応じた社会資源がある。	
	急変時のことや胃ろう創設などの状況を想定し、当事者及び家族の意向を定期的に確認する医療介護従事者が増えている。	
多職種・多機関連携		
	関係機関、多職種が連携し、疾病の予防・早期発見・重度化防止等、早期支援体制が強化されている。	
人材育成・スキルアップ		
	認知症当事者及び家族への初期対応ができる医師が身近にいる。	
	認知症患者に対応できる歯科医師が増えている。	
	認知症の初期・中期・終末期に応じたケア・対応方法を理解し、詳しい状況を提供できる医療・介護事業者が生活圏域に存在する。	
	認知症当事者が自ら意思決定できるよう状況に応じた支援ができています。	
	日常生活自立支援事業や成年後見制度など、認知症当事者が必要な状況に応じてサービス利用ができています。	
	病院・介護施設等において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが増えている。	
普及啓発		
	気軽に認知症に関する相談ができています。	
	近隣住民が認知症を理解し、僅かな変化にも関心を持ち声をかけられる、又は地域包括支援センターへ相談することができており、初期集中支援チームなど支援に繋がるができています。	
	希望を叶えるヘルプカードを活用する人が増えている	

番号	令和12年の状態(中間アウトカム)	指標
2	認知症の人が住み慣れた地域で、疾患、介護度に応じた多職種協働による医療・ケアを受けることができる	

【急変時の対応】

多職種連携研修の実施	研修会参加回数	
医療・介護従事者によるチーム支援(意思決定支援)の実施	検討回数	

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
体制整備		
	中等度の認知症の当事者であっても、表情・態度・行動からサインを読み取り、急変を見逃さないスキルを身につけた医療・介護スタッフが増えている。	
人材育成・スキルアップ		
	本人の意思や状況を継続的に把握し、事前に医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができている。	

番号	令和12年の状態(中間アウトカム)	指標
3	急変時に認知症の人が望む医療・ケアを受けることができる	

【看取り】

多職種連携研修の実施	事例検討会への参加回数	
人生会議の開催	開催回数	

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
多職種・多機関連携		
	不安や混乱する頻度が減少し、望む場所で過ごせる期間が延びている。	
	医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができる。	

番号	令和12年の状態(中間アウトカム)	指標
4	認知症の人が住み慣れた自宅や介護施設など本人が望む場所で看取りの医療・ケアを受けることができる	

ロジックモデル(案) 見え消し

具体的取組(個別施策)	指標(実績)
【入退院支援】	
医療機関の認知症高齢者の受入れ状況等 の把握しヒアリングを実施	認知症状と病状を踏まえ、優先すべき診療の案内ができる
多職種連携研修の実施	
入退院調整マニュアルの運用	
医師・薬剤師・看護師・医療介護従事者向け、認知症対応力向上研修の受講促進者を増やす	
医療機関・介護施設の有資格者やケアマネー、包括職員等に応じた認知症サポーター養成講座の実施	
医療従事者による介護施設やグループホームの見学	
認知症サポーター、認知症地域支援推進員の周知・連携	
認知症に関する相談窓口の充実・チームオ レンジ(認知症支援隊)活動の周知	

【日常の療養支援】

	施設の認知症高齢者の受入れ状況の把握 【課題把握】	
	定期的な当事者・家族のミーティングや対話の実施	初期アウトカムに対する取組は、 それで正解か？ 例 家族会への参加や認知症力 フエなどか？ 上記と意味合いが似ているのでこ ちらは判別
×	認知症対応施設の見学企画（グループ ホーム、精神科病棟）	
	認知症高齢者のニーズを把握し、不足する 地域の社会資源を創出する	
	多職種連携研修の実施	↓ 【課題】ニーズが高い認知症の方への ケア
	想いを伝える私ノートの活用及びACP（人 生会議）の定期的な開催促進について利 用者（患者）とチーム間で定期的に対話す る時間を設ける	
	初期集中支援チームの活動を有効に活か すための啓発活動を行う（再掲）	

	かかりつけ医の対応力向上研修の受講者を増やす。 促進	
	歯科医の認知症患者に対する対応 状況 の難しさ(現状)の 把握 、 改善案 を考える機会を設ける	
×	医療・介護従事者向け認知症時期別・対象別マニュアルを活用する	
×	医療・介護従事者向け認知症時期別・状態別対応マニュアルを周知する機会を設ける	この2列は同じ内容。まとめる
	医療・介護事業者向け認知症時期別・症状別対応マニュアルを周知し活用促進	
	医療・介護従事者向けに意思決定支援に関する研修会を広く実施する	認知症高齢者の権利保護に関する研修
	多職種連携研修の実施	
	医療・介護従事者向け研修会の実施(BPSD等への対応)	医療・介護従事者向けにBPSD等への対応
	医療・介護従事者向けにBPSD等への対応方法を改めて学ぶ機会を設ける	

広報誌を活用し、認知症に関する相談機関（認知症地域支援推進員専用ダイヤル・若年性認知症サポートセンター）についての周知を徹底する			
認知症サポーター養成講座のスキルアップ研修（支援隊養成講座）等において、認知症地域に関心を持つ地域住民を増やすため、認知症サポーター希望講座の認知症サポーター修及び認知症支援隊の養成を展開する		多職種・多機関連携にある項目と同じとみなし、削除	
医療・介護従事者に対し初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発を行う			
医療・介護職向けに、希望を叶えるヘルパカードの活用案の周知			

【急変時の対応】

×	市民や関係機関に対して、想いを伝える私 ノートの活用・人生会議の定期的な開催	は削除
	多職種連携研修の実施	認知症を有する人への看取りやケア
	医療・介護従事者によるチーム支援(意思 決定支援)の実施	

【看取り】

多職種連携研修の実施	前号の志願決定文書 〇
人生会議の開催	

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
	体制整備	
	BPSD等、認知症状が出現している患者の受け入れができる医療機関が増えている。	
	認知症の有症状が強くて、診療科の調整がスムーズに図られ、入院ができています。	
	多職種・多機関連携	
	入退院時において、ケアマネ等と病院担当者が、認知症患者の情報(症状や特性)をタイムリーに共有できている。	
	人材育成・スキルアップ	
	病院・施設内において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが増えている。	
	認知症状を有する方の退院に向け、医療・介護関係者が当事者の希望暮らしをサポートできる体制が整えられている。	
	普及啓発	
	認知症当事者及び家族等介護者への支援が行き届いている。	

体制整備	
医療ニーズの高い認知症の人を受け入れる介護事業所が増えている。	
認知症の人や家族が参加できる通いの場や居場所が増えている。	
認知症の当事者を介護している家族がリフレッシュできたり、愚痴がこぼせる場所が増えている。	
認知症の状態像や医療ニーズに応じた社会資源がある整っている。	
急変時のことや胃ろう創設などの状況を想定し、当事者及び家族の意向を定期的に確認する医療介護従事者が増えている。	

多職種・多機関連携	
	関係機関、多職種が連携し、疾病の予防・早期発見・重症化防止等、早期支援体制が強化されている。

人材育成・スキルアップ	
認知症当事者及び家族への初期対応ができる医師が身近にいる。	
歯科医においても認知症患者に対応できる歯科医師が増えている。	
認知症ケアや介護に関する詳しい情報を提供できる医療・介護事業者が生活圏域に存在する。	
認知症の初期・中期・終末期に応じたケア・対応方法を理解する医療・介護従事者が増えている。	
認知症の初期・中期・終末期に応じたケア・対応方法を理解し、詳しい状況を提供できる医療・介護事業者が生活圏域に存在する。	
認知症当事者が自ら意思決定できるよう状況に応じた支援ができています。	
日常生活自立支援事業や成年後見制度など、認知症当事者が必要な状況に応じたサービス利用ができています。	
病院・介護施設等において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが揃っている。	

普及啓発		
	気軽に認知症に関する相談ができています。気軽に医療や介護に関する相談ができる地域包括支援センターや若年認知症サポートセンター、認知症地域支援推進員の専用ダイヤルの周知が徹底され、必要時に利用ができています。	
	近隣住民が認知症を理解し、僅かな変化にも関心を持ち声をかけられる、又は地域包括支援センターへ相談することができおり、初期集中支援チームなど支援に繋がる事ができています。	
	認知症初期集中支援チームの存在を医療・介護従事者が知っている。	
	希望を叶えるヘルプカードを活用する人が増えている	

人材育成・スキルアップ	
	本人が自ら意思決定できるよう支援できている
	中等度の認知症の当事者であっても、表情・態度・行動からサインを読み取り、急変を迅速なスキルを身につけた医療・介護スタッフが 増えている 身に付けている。
体制整備	
	本人の意思や状況を継続的に把握し、事前に医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができている。

多職種・多機関連携		
	不安や混乱する頻度が減少し、望む場所で過ごせる期間が延びている。	
	医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができる。	

番号	令和12年の状態(中間アウトカム)	指標
1	認知症の人が安心して療養することができる環境が整っている。	

2	認知症の人が住み慣れた地域で、疾患、介護度に応じた多職種協働による医療・ケアを受けることができる	
---	--	--

3	急変時に認知症の人が望む医療・ケアを受けることができる	
---	-----------------------------	--

4	認知症の人が住み慣れた自宅や介護施設など本人が望む場所で看取りの医療・ケアを受けることができる
---	---